

事例番号:350104

原因分析報告書要約版

産科医療補償制度
原因分析委員会第四部会

1. 事例の概要

1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

2) 今回の妊娠経過

特記事項なし

3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 40 週 0 日

2:50 陣痛発来のため入院

4) 分娩経過

妊娠 40 週 0 日

16:56 頃- 胎児心拍数陣痛図で変動一過性徐脈を頻繁に認める

18:20 続発性微弱陣痛、分娩第 2 期遷延のためオキシシシ注射液による陣痛促進開始

19:41 頃- 胎児心拍数陣痛図で頻脈、基線細変動の減少および消失、高度遅発一過性徐脈を認める

20:01 急速遂娩が必要との判断で子宮底圧迫法により児娩出

5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:40 週 0 日

(2) 出生時体重:2900g 台

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.20、BE -9.1mmol/L

(4) アプガースコア:生後 1 分 3 点、生後 5 分 4 点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バック・マスク)

(6) 診断等:

出生当日 呼吸障害

(7) 頭部画像所見:

生後 10 日 頭部 MRI で大脳基底核・視床に信号異常を認め、低酸素性虚血性脳症の所見

6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医 4 名、小児科医 2 名

看護スタッフ:助産師 6 名

2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、分娩経過中に生じた胎児低酸素・酸血症により低酸素性虚血性脳症を発症したことであると考ええる。

(2) 胎児低酸素・酸血症の原因を解明することは困難であるが、臍帯血流障害の可能性を否定できない。

(3) 胎児は、妊娠 40 週 0 日分娩第 2 期の時間帯から低酸素の状態となり、その状態が出生までの間に進行し、低酸素・酸血症に至ったと考える。

3. 臨床経過に関する医学的評価 (2020 年 4 月改定の表現を使用)

1) 妊娠経過

妊娠中の管理は一般的である。

2) 分娩経過

(1) 妊娠 39 週 6 日、妊産婦からの電話連絡への対応(破水・胎動の有無、性器出血の性状を確認し、破水感や子宮収縮増強時に再度電話連絡をするよう指示)は一般的である。

(2) 妊娠 40 週 0 日、入院時の対応(内診、分娩監視装置装着)およびその後に断続的に分娩監視装置を装着して経過観察としたことは、いずれも一般的である。

(3) 妊娠 40 週 0 日 17 時 51 分頃に、続発性微弱陣痛、分娩第 2 期遷延と判断し陣痛促進を開始したことは一般的である。

- (4) 子宮収縮薬投与の説明と同意の取得方法(書面による説明と同意)は一般的である。
- (5) オキシシン注射液の開始時投与量および増量法は、いずれも一般的である。
- (6) オキシシン注射液投与中の分娩監視方法(連続的に分娩監視装置を装着)は一般的である。
- (7) 妊娠 40 週 0 日 19 時 12 分頃の高度変動一過性徐脈への看護スタッフの対応(酸素投与)は一般的である。
- (8) 妊娠 40 週 0 日 19 時 41 分頃以降、胎児心拍数波形レベル 5 を認める状況で、急速遂娩が必要と判断し、産瘤が発露している状態で子宮底圧迫法を実施したことは一般的であるが、子宮底圧迫法開始時の内診所見(児頭の位置)、実施回数の記載がないことは一般的ではない。
- (9) 臍帯動脈血ガス分析を実施したことは一般的である。
- (10) 胎盤病理組織学検査を実施したことは適確である。

3) 新生児経過

- (1) 出生後の新生児の状況(啼泣なし、筋緊張低下)で直ちに蘇生の初期処置として保温、気道確保、気道の吸引を行ったことは一般的である。
- (2) 蘇生の初期処置後の評価で自発呼吸を認めない状況で、バッグ・マスクによる人工呼吸を開始せず、口腔内および鼻腔内吸引、足底部刺激を継続したことは選択肢のひとつである。

4. 今後の産科医療の質の向上のために検討すべき事項

1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

- (1) 子宮底圧迫法開始時の内診所見(児頭の位置)、実施回数は重要な事項であり、診療録に記載することが望まれる。
- (2) 新生児蘇生については、分娩に立ち会うすべてのスタッフが「日本版救急蘇生ガイドライン 2020 に基づく新生児蘇生法テキスト」に即した適切な処置が実施できるよう習熟することが望まれる。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

なし。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

なし。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。